

(講演III)

## 国際山岳年プラス20ー持続的山岳地域開発の焦点

ヘルマン・クロイツマン (ベルリン自由大学名誉教授)

2022年は国際的山岳コミュニティのための意義深い重要な年である。半世紀前、UNESCOは、これらの傷つきやすい景観に模範的なヒントを与える適切な山岳研究に対して、率先して人と生物圏プログラムを作り始めた。30年前、国連は環境と発展のリオデジャネイロ会議を実現し、20年前、この山岳国際年は、岬となる山岳景観の決定的な相互の独立について成長する意識を惹起した。これらのすべては、理解できる接近をリードし、持続的発展の目標を確認するための努力に結びつけた。目標15の中にある持続的発展ゴールの最初のターゲットは、「防御、元にも戻すこと、地球の生態系の持続的利用を助長すること、持続的に管理する森林、砂漠化との戦い、停止や失敗した土地の退化、停止した生物多様性のロス」などで、今回の講演では、生態系間の山岳と以前にあった持続性に対する国際的な同意のラインの保護そして元に戻すことである。(https://sdgs.un.org/topics/mountains)

保護や復元の集中、復元と持続的利用は、私たちの時代を理解する挑戦を把握する企てである。明らかに、長いリストには、人の消費する水の明確な資源と灌漑、水力発電エネルギー発生の高いポテンシャル、生物生態的多様性のための価値ある保留地、鉱物資源のような開発可能な地域資源エリア、森林製品、農業商品、そしてレクリエーションのための成長する資源など、山岳論争に関する確かな話題が存在する。人間のインパクトは、インフラストラクチャー発達と観光と同様に、鉱物や農業の活動でも明らかである。地球温暖化や土地の退廃から提出された現在の挑戦は、理解できる適応や緩和戦略を、確認し分析して深く認識することを必要としている。意義深い仕事は、すでにこの細目で終了しており、私の話は、アジアやヨーロッパにおける経験から、いくつかの挑戦、総合的な状況を紹介する反応、いくつかの鍵となる論争点のヒントを扱っている。

山岳研究の第1のターゲットは、穀物農業の農業的実践と家畜耕作、さらに、初期の研究において、これらの実践を分類することであり、アジアやヨーロッパ山岳地域の発展について大きな違いを確認した。山岳の地域的発展は、いろいろな道路とインフラストラクチャーの発展を占めて以来であり、都市化と観光産業の速い成長は、山岳環境や山岳資源に主要な圧力を持ち出した。挑戦は、持続的山岳の発展のための方向を定義し、気候変動にうまく処理する戦略ができたときに増加する。幾つかのヨーロッパの国では、交差する領域の協力や知識のやり取りが、人類や今日の挑戦の取り組みにおいて、統一した戦略の助けになっていることが認められている。アルプスやカルパチア協定はこれらの努力の例である。高度の高いアジアの山岳では、挑戦が異なる方向として暴露された。農業、水力、鉱物資源は必要とする国の重要度では第1位である。地理的危機、未解決な領域の論争、地方的緊張状態、地域的分割などは、協力の努力と相互の利益交換を妨害する一部の挑戦について記述される。転出と多くの地方の一般的収入は連携の複雑な織り方となっている。

サービス産業として、第一に駆り立てられる観光、登山やトレッキングなどは、収入の源泉として確認し、そして、オーバーツーリズムの処理の仕方や、都会化の手がかりであるレクリエーション方法に対する多くの休日の行楽に、問題点として意義深い注意が注がれている。

(訳：水嶋 一雄)